

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495600247	事業の開始年月日	平成24年7月1日	
		指定年月日	平成24年7月1日	
法人名	医療法人社団 東華会			
事業所名	小規模多機能施設あさお			
所在地	(〒215-0018) 神奈川県川崎市麻生区王禅寺東5-48-16			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25 名	
		通い定員	15 名	
		宿泊定員	7 名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年2月6日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

軽度の方から重度の方までサービスを必要としている方は断らず、どのような方でも受け入れをしています。様々な状況に合わせ、訪問、通い、泊まりを活用して信頼関係を作りながら安心して利用していただけるよう職員一同取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年3月26日	評価機関 評価決定日	平成27年5月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇理念の共有と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理念の「明るい笑顔で感謝の気持ちを持ち、365日安心と信頼してもらえるサービスの提供」を毎朝朝礼で唱和して職員間で共有している。職員は利用者を毎日笑顔で迎え、明るく丁寧な言葉で話しかけて支援し、信頼を得られるよう理念の実践に努めている。 <p>◇地域との相互交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議のメンバーとして町内会役員・老人会役員・民生委員・地域住民などの参加があり、地域の情報を得て、利用者が地域の琴平神社の祭礼や移動動物園に参加したり、事業所の納涼祭に地域住民や老人会会員の参加があるなど、相互に交流している。 ・小学校の児童が授業の一環として来訪してハンドベルの演奏を披露するなど学校とも連携し、利用者は子ども達との触れ合いを楽しんでいる。 <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇利用者や家族の意向を反映した馴染みの関係の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者と近隣との馴染みの関係維持のため、本人との会話や家族の話から情報を得て、かかりつけ医への受診や馴染みの店への買い物に同行するほか、近隣との友好関係にも配慮して管理者が隣人と非常時対応を話し合うなど、地域で住み続けられるよう支援している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	小規模多機能施設あさお
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を毎朝朝礼時に声を出して読みあげて共有している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設立時に策定した理念を事務所に掲示し、毎朝の朝礼時に読み上げて共有化に努めている。 ・ 理念の内容は、明るい笑顔で感謝の気持ちを持ち、365日安心と信頼してもらえるサービスの提供であり、実践につなげている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の活動には出来る限り参加させていただいている。施設のイベントにはいつも町内の方が来ていただいてにぎやかになっている。交流は年を重ねるごとに増えてきている。地域のボランティアの募集もおこなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会に加入し、地域の琴平神社の祭礼に参加したり、事業所の納涼祭に地域住民や老人会会員の参加があるなど、相互に交流している。 ・ 小学生の福祉体験や、音楽・踊りのボランティアの受け入れがあり、利用者の楽しみになっている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的にオープンカフェを開催し地域の方をお招きして認知症ケアの講座や協力医療機関にお願いして高齢者向けの口腔ケア等おこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度おこなっている。参加される方も増えてきている。民生委員の方をはじめ、最近では老人会副会長、町内会広報の方も参加され有意義な時間を持っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2ヵ月ごとに町内会役員・老人会役員・民生委員・地域住民・利用者家族・地域包括支援センター職員の参加で開催している。 ・ 参加者から地域情報や運営への助言を得、地域行事の節分会や移動動物園への参加につながっている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	おこなえていない。今後相談できる環境を構築していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政には、介護保険代行申請時や困難事例が発生した際に相談している。 ・ 7か所の地域包括支援センターとは、施設長が事業所の情報を届けながら情報交換するなど、常に連携が取れる体制がある。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて身体拘束はおこなっていない。	・身体拘束マニュアルがあり、職員から定期的にアンケートを取って実践できているかを確認し、拘束しない介護を周知徹底している。 ・玄関や居室は施錠せず、職員が利用者の行動を連携して見守り、外出する利用者には付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年おこなっている意向調査でも職員すべてが虐待はないと答えている。研修もおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はなかったが、利用者様の後見人がたつことになり今後は学べる機会も多くなっていくと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明はおこなっている。また、何か質問がある時にはきちんとお答えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族からの要望等あった時には職員にすみやかに伝え情報の共有をしている。また、参加者は少ないが、年に1回家族会もおこなっている。	・苦情・要望の対応規定として苦情処理マニュアルを備えている。 ・利用者の様子を家族等に伝える連絡ノートで家族や利用者からの要望を聞き、伝言板に記載して職員で共有している。 ・外出場所への提案を検討したり、急な泊りの要望にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の会議にて提案があった時には会議にて検討し、反映している。	・職員からの提案や意見、要望は、日常の業務や月1回開催の会議で聞いている。検討内容は会議録で参加した職員も含めて全職員がチェックして共有している。 ・利用者の変化に応じた介助方法の提案を支援に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの労働条件の要望を聞けるようにシフト作りをしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には出来る限り参加をしている。時期によって内部での勉強会もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内にて交換研修をおこなっている。また、今年度より麻生区内の小規模多機能型施設同士の交流を兼ねた交換研修もおこなっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どのような支援が必要なのか話をよく聞いて本人の希望に沿ったケアプランを作成できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に何かを重視してほしいというところはサービスに取入れ、後は段階的に必要があればその都度変更して対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	おこなっている。まず、何が必要なのかというところに重点を置いてサービスに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	開所して間もない頃は感じられなかったようだが、月日を通し、利用者様の一日の生活を見守っていく中で関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の送迎があったりと毎日のように顔を合わせる内に家族のように本人の様子をお互いに伝えあったりという関係を作れている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣近所の方の支援はできる方には何名かお願いしている方もいる。いままで行っていたお店や病院は変えることがないように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の話や生活歴を参考にし、馴染みの店への買い物やかかりつけ医受診に付き添っている。 ・送迎時には近隣住民と挨拶を交わしたり、独居利用者の隣人と非常時体制を話し合うなど、良好な関係性の継続を支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様がいつでもお話ができる環境を提供している。少しでも関わりを持てるように職員が間に入り孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話等で確認している方もいます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	危険が無い限り、出来る限りおこなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時に利用者や家族から暮らし方の希望を聞き、在宅での支援や泊り、通いのサービス内容に反映している。 ・要望には危険のない限り応え、泊りの頻度にも配慮しながら家での暮らし継続の要望を支援している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	無理なく生活が継続できるようにその方に合わせておこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合わせておこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場での会議でおこなっている。家族との話し合いはモニタリングにて要望や意見をお聞きし、介護計画に反映している。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のモニタリング結果を記録してカンファレンスで検討し、利用者や家族の要望、職員の意見を反映して介護計画を作成している。 ・計画は3か月の短期目標と6か月の長期目標を立てて作成して定期的に見直しているが、変化があった場合はその都度見直している。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファをおこなって見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に必要なサービスに柔軟に変更できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	何名かの利用者様には地域で声をかけてくれたり、ゴミ出しを手伝ってくれたりする方もいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とはおこなえている。	<ul style="list-style-type: none"> ・原則かかりつけ医の継続受診で、家族から受診時の情報を得て、事業所での薬の管理やバイタルチェックは看護師が行っている。 ・かかりつけ医の往診を受けている利用者には往診時に職員が出向いて情報交換し、健康管理を支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	おこなっている。体調の変化があった時には報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な時には病因に出向きドクターの話をお聞きし今後のケアを検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をおこなって、重度になった時に具体的に話し合いをおこなっていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化に向けた指針を契約時に説明し、看取り対応が必要になった場合は家族の意向を聞き取り、同意書の提出を得て支援している。 ・利用者の状況や救急搬送の対応を職員に周知し、往診の際に管理者が訪問して情報交換をするなど、終末期対応に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看取り指針や終末期対応について、全職員で研修して支援方法を共有するなど、一層の周知が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	おこなえていない。今後研修を取り組んでいく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の訓練は地域の方にも参加していただき年に2回おこなっている。備蓄品も多く備え、いざという時に備えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、避難訓練を行い、夜間対応訓練時には地元住民にも協力を呼びかけ、夜間誘導の訓練に参加してもらっている。同時に地域住民と消火器の使い方訓練も行っている。 ・米・飲料水・冷凍食品・缶詰・ビスケット、ラジオ・コンロ・簡易ボンベなどを備蓄している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おこなっている。一人ひとりに合わせている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は日頃よりプライバシーを損ねない言葉づかいに配慮し、利用者に合わせて丁寧に話しかけている。 ・入職時に個人情報保護法などの説明を受け、誓約書を提出している。 ・個人情報電子データはパスワードをつけて入力している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決して無理じいはせず、お聞きするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間も自由ですし、入浴や食事の時間も希望があればその方に合わせて提供しています。日中も時には臥床して体を休める方もいますし、張り切って体操やレクに励む方等様々です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴できない方には足浴を進めて、夕食後には暖かいタオルで顔や手足を拭いていただき、起床時には髪の毛をとかしたり、着替えのお手伝いをしたりと、一人ひとりに声かけしてお手伝いしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握して配慮しています。要望をお聞きしてお出しするようにしています。片づけはいつもお手伝いをお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が献立を作成して買い物に行き、好みを反映して調理している。 ・利用者はできる範囲で、テーブル拭き、おしぼり配り、下膳、茶碗洗いを行っている。 ・江ノ島でしらす丼を食べたり、回転ずしに出かけたりしている。誕生会にはケーキなどを提供して祝っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に声をかけ、介助が必要な方にはお手伝いをして、治療が必要な方には訪問歯科をご紹介して定期的に診ていただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を重視して取り組んでいます。	・排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導の支援をしている。おむつ利用者も1名いる。 ・利用開始時にリハビリパンツを使用していた利用者が布パンツへ改善した事例もあり、自立している方も多いため、現状維持を大切に考えてトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を心掛け、毎日の運動を支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り本人の希望をお聞きして希望の時間に入れるように配慮しています。日数や曜日にも希望に沿っておこなっています。	・入浴は基本的には週2回で、毎日入浴を希望する利用者にも対応している。 ・入浴を好まない利用者には声かけする人や時間を変えて対応し、看護師や往診医の協力を得るときもある。 ・夏は清拭やシャワー浴、冬は足浴も取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理な消灯時間などは設けず、一人ひとりに合わせて声かえをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的には看護師に薬のセットはお任せしています。職員については薬の飲み合わせや注意事項は伝えていますが、その他の詳しい内容は把握できていない。服薬時は名前と日付を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて好きなことを楽しんでいただけるように配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お買い物等は一緒に行き楽しんでいただいています。また、家族の方に頼まれたりもします。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日には、車イスの方も事業所の周りを散歩している。近くの家の庭木を眺めながら、ゆっくりと王禅寺へ行く方もいる。職員と一緒に買い物にも出掛けている。 ・弁当持参で横浜ズーラシア動物園やふるさと公園、生田バラ園、江ノ島水族館などへの遠出もしている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方についてはお任せしています。管理が難しくご家族より依頼を受けた時はこちらでお手伝いをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がありましたらお手伝いをします。電話については携帯電話をお持ちの方は自由に、また電話をかけたい利用者様には状況によってお使いいただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるようにその月々に合わせた手作りの飾り物を皆様と作成して飾っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは明るく清潔に保たれ、温・湿度や換気にも配慮している。 ・壁や廊下には節分の鬼の面、桜や富士山の貼り絵、イベントの写真など季節を感じる飾りがある。 ・室内には生花を絶やさないように飾り、ベランダや玄関前には季節の草花を植えている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室を利用して、お一人ひとりに合わせて利用していただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりが長くなっている方にはそれなりに持ち込みの物は多く、特に制限等は設けていません。急な泊まりの方については、こちらで用意した物を使用していただいています。	<ul style="list-style-type: none"> ・泊りの部屋は個室で、エアコン、ベット、ふとん、カーテン、時計を備え付け、利用者は着替えや化粧品など衣類や身の回り品を持ち込み、泊りが長くなる利用者は馴染みの品を飾るなど、居心地良く過ごせるようにしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除、洗濯、洗い物、花の水やり、畑の手入れ等その方ができるところと一緒にこない支援しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能施設あさお

作成日 平成27年5月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看取りや終末期における職員への研修と支援方法の共有について	全職員が看取りや終末期についてんの研修を受け看取りが必要となった方に対し精一杯の支援ができるように職員一同取り組んでいける体制を作り上げる	①研修の調整をして順次職員一人ひとりに研修を受けてもらう。 ②研修を受けた職員が月に一度ある会議にて研修報告をしてもらい職員間で共有していく	平成27年5月～平成28年4月
2	18	日常的な外出支援についてご家族からもう少し外出の機会を増やしてほしいと要望があったことについて	現在も定期的に外出支援をおこなっているが今後も皆様に喜んでいただける企画を提供できるようにしていく	①利用者様の要望をお聞きしながら外出先を考えていく ②今まで行ったことのない場所に行ってみる ③大きな外出会だけでなく日頃から散歩や近所にある畑に行ける環境を作る	平成27年5月～平成28年4月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。